

広域のまちづくりに関する調査研究業務報告書 (ダイジェスト版)

1. 調査目的

JR 東海は、リニア中央新幹線の岐阜県内中間駅位置として、中津川市西部を選定し、路線や構造物の位置・規模等については、今後、計画を具体化していくとしています。一方、中津川市では、平成 22 年度に「広域のまちづくりに関する調査研究業務」を実施し、リニア開業効果を広域的に活用するための視点を整理し、これを踏まえたリニア時代の発展シナリオ及び施策の方向性を整理しました。本調査は、リニア駅が市内に位置することを前提に、平成 22 年度調査で整理した方向性を踏まえ、より具体的な発展シナリオの構築に資することを目的として実施しました。

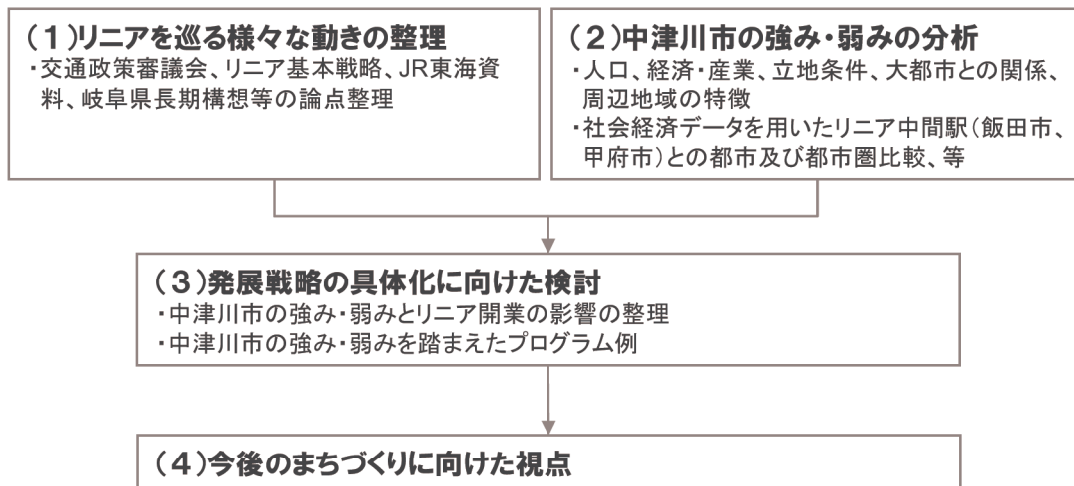


図1 調査フロー

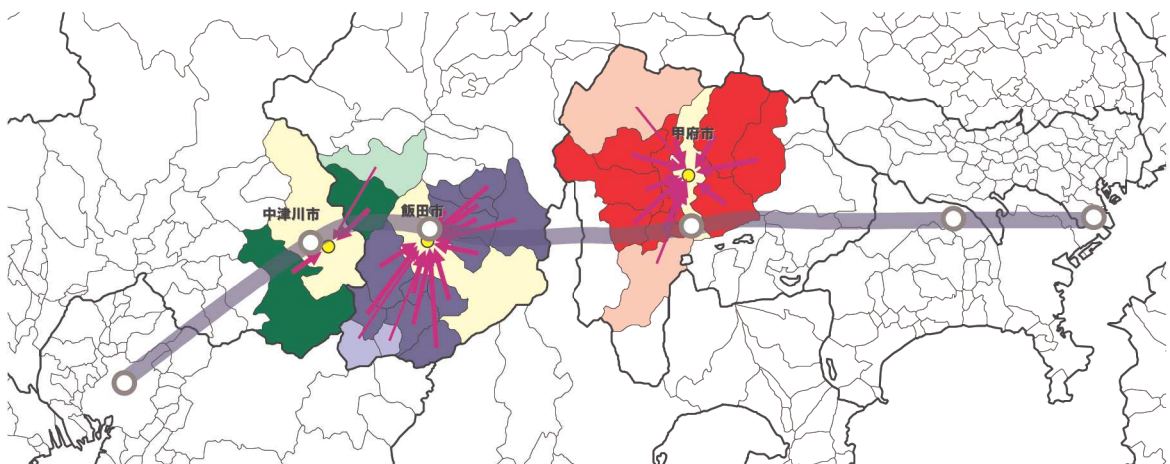


図2 分析対象都市

※クリーム色は対象都市。濃い色は10%圏構成市町村、薄い色は5%構成市町村

2. リニアを巡る様々な動きの整理

中津川市におけるリニア駅活用に向けた論点を整理しました。

関連する議論	中津川市におけるリニア駅活用に向けた論点
①交通政策審議会中央新幹線小委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・中津川市を中心としたアクセス圏の範囲の拡大について想定すると、飛騨・下呂方面、木曽方面、東三河方面といった各方面を意識した検討が必要となる。 ・また、高速道路との結節や駅周辺の駐車場確保、在来線とのアクセス、高速バスとの連絡などの駅の交通結節機能のあり方とあわせて、駅周辺整備の駅関連空間の高度利用に関しての検討が必要となる。
②中央新幹線（東京都・名古屋市間）環境影響評価方法書（岐阜県）	<ul style="list-style-type: none"> ・駅・車両基地が中津川市に設置されることで、まとまった用地が必要となることから、居住環境等への影響を踏まえた地域づくりをして行くことが必要となる。 ・また、郊外に設置される見通しであり、広域的な交通結節点の中津川駅とリニア駅の2つとなることから、双方の交通結節機能をまちづくりの視点から位置づける必要がある。 ・さらに、リニアの駅とあわせて車両基地（70ha）が設置されることで、産業面の活性化、観光資源としての活用、雇用の確保などへの期待が高まることから、これを踏まえた地域づくりも重要となる。
③岐阜県リニア基本戦略	<ul style="list-style-type: none"> ・リニア駅は岐阜県の東の玄関口となるため、広域的な観点で、観光面、移住定住面、産業面、それらを基盤整備のあり方について、中津川市においても検討していくことが重要となる。
④岐阜県の県土整備ビジョン等	<ul style="list-style-type: none"> ・中央自動車道及び計画道路である濃飛横断道路あるいは国道257号とのアクセスの仕方について検討が必要になるとともに、東三河方面との道路整備のあり方の検討が必要となる。また、在来線結節性や高速バスとの連絡性などリニア駅と多モードの結節についても検討することが必要となる。

3. 中津川市の強み・弱みの分析

以下の社会経済データを用いて、中津川市とリニア中央新幹線沿線都市（甲府市、飯田市）を比較して、中津川市の特徴を分野毎に整理しました。

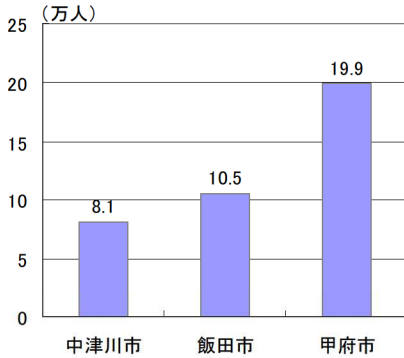
	社会経済データ（指標）
農林業	生産農業所得額、林業経営体数、農林業従業者数、樹種別面積
工業	製造品出荷額等、製造業従業者数、工業地価、立地企業
商業・サービス業	商品販売額、商店街商品販売額、売り場面積あたり商品販売額、商業従業者数、商業地価、サービス業市内総生産額、サービス業従業者数
観光	観光客数、宿泊・飲食業従業者数、主な観光資源
地場産品	地域産業資源活用事業計画の認定内容
自然環境	主要日本百選箇所数
歴史文化	国指定文化財リスト
人づくり・子育て	教育費の歳出額、合計特殊出生率、図書館の貸出冊数、高等学校数、
住宅	人口集中地区人口、住宅あたり延面積、住宅地価
安全安心	医師数、病院病床数、老人福祉施設定員、児童福祉施設定員、刑法犯認知件数、交通事故発生件数

中津川市の人口、経済規模、産業構造の特徴は以下の通りです。

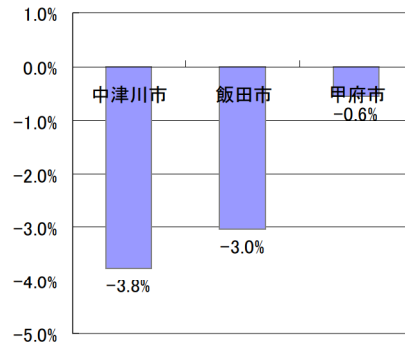
中津川市の特徴

- 一人当たり総生産は全国並み。
- 人口規模・経済規模は最も小さい。
- 人口減少が最も進む。
- 若年層人口が少ない。
- 農林漁業、鉱業、製造業、複合サービス業に特化。
- 情報通信業、教育学習支援、サービス業の集積は小さい。

[総人口 (2010 年)]

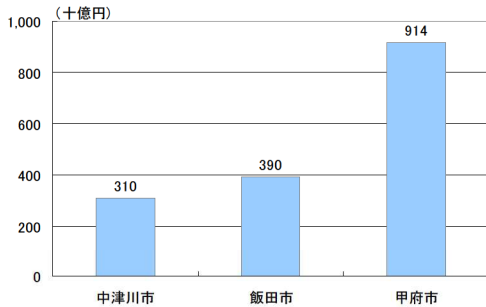


[人口変化率 (2005 年/2010 年)]

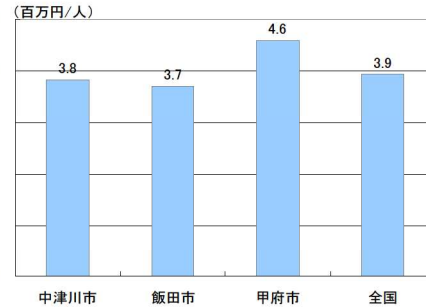


出典：国勢調査 (H22)

[市内総生産 (2008 年)]

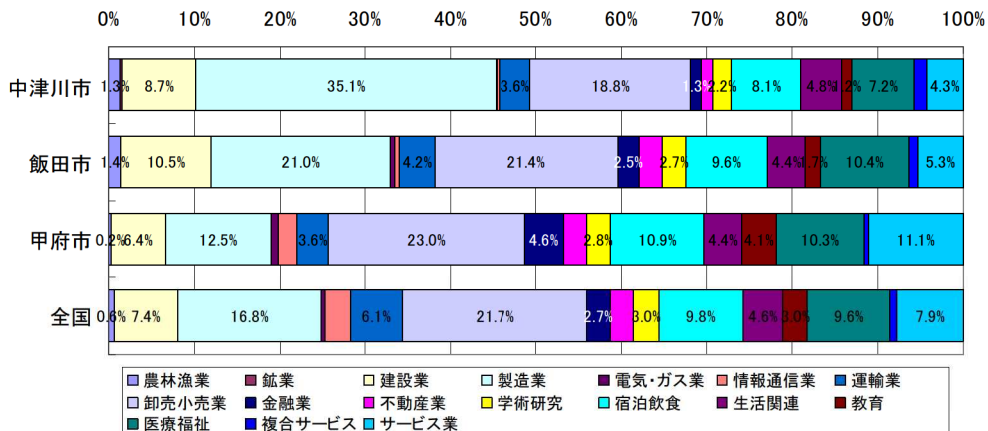


[人口あたり市内総生産 (2008 年)]



出典：各市市民経済計算 (H20) ※甲府市は H17 の数値、人口は H22 時点

[業種別従業者数の構成比 (2009 年)]



出典：経済センサス (H21)

4. 発展戦略の具体化に向けた検討について

平成 22 年度調査で整理した取り組みの方向に対して、中津川市の強み・弱みの分析結果及びリニア開業の影響と期待を踏まえ、中津川市の強み・弱みを活かしたプログラム例を以下に示しました。

①農林業

取り組みの方向

- 本市の地場産品をブランド化し、消費を促すための取り組みを進める。
- 農林業の消費を促すための農業体験型サービスや 6 次産業化を進める。
- 後継者を確保するため、人材の情報交流や人的交流を進める。

中津川市の特徴

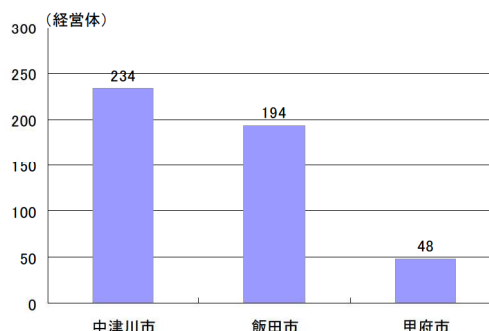
- 生産農業所得額、林業経営体数が最も多い。
- 育林業に特化。

[生産農業所得額 (2006 年)]



出典：生産農業所得統計 (H18)

[林業経営体数 (2005 年)]



出典：2005 年農林業センサス

リニア開業の影響と期待

- ・中津川市農林業（東濃ヒノキ）の認知度向上・ブランド性が高まる。
- ・農林業の大都市からの担い手確保が容易になる。
- ・農業体験型サービスマーケットの拡大が期待される。

強み・弱みを活かしたプログラム例

- ・生産方式や品質の規格統一支援や品質向上に向けた農産物の管理、検査体制の構築
- ・地場産業のブランド化支援
- ・情報発信コンテンツの作成・展開
- ・観光企画とのタイアップによる体験ツアー・オーナー制度等の機会の創出支援
- ・官民連携による情報発信、販売方法等の活動支援
- ・東濃ヒノキを活用した次世代型環境住宅の実証実験
- ・耕作放棄地や荒廃山林を活用した農林業体験活動の支援体制の構築
- ・耕作放棄地情報の提供や休耕地の貸出しサービス支援

②工業

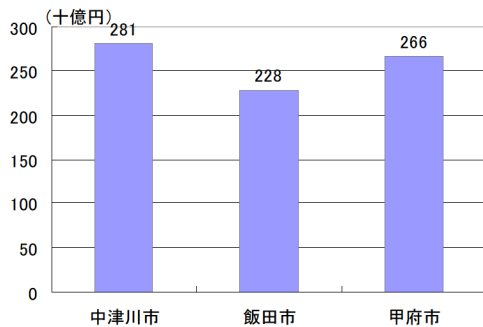
取り組みの方向

- 市内交通アクセス性を高めることや技術の高度化や事業分野の特化の促進。
- 既存企業の円滑な事業活動と持続的な成長を図り、本市のものづくり産業基盤を確固たるものにするため、企業誘致を進める。
- 企業の求める人材を量的・質的に確保するための取り組みを進める。
- ものづくりのまちとして更なる求心力を高めるため、研究開発機能の誘致やそれを支える新たな事業分野の誘致を進める。

中津川市の特徴

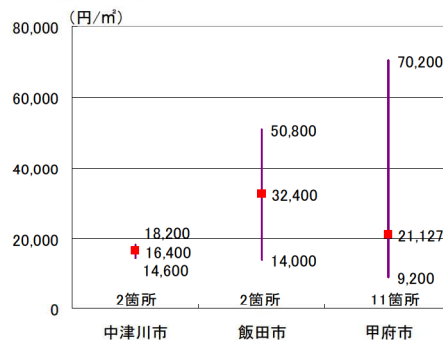
- 製造品出荷額等は最も大きく、工業地価の平均が最も安価。
- 非鉄金属、木材木製品、はん用機械器具、電子部品・デバイス・電子回路、プラスチック製品など多くの部門に特化。

[製造品出荷額等 (2009年)]



出典：工業統計 (H21)

[工業地地価 (2011年)]



出典：都道府県地価調査 (H23)

リニア開業の影響と期待

- ・立地優位性を活かした既存企業の活性化に伴う新たな企業立地・集積が期待される。
- ・大都市との研究開発機能の産官学連携が容易になる。
- ・技術展や見本市への出展・開催が可能となる。
- ・大都市からの新たな雇用確保が可能となる。
- ・車両基地設置に伴う関連企業の立地や新たな産業立地と中津川市の高いモノづくり技術力があいまって、学術研究分野の集積の素地の確立が期待される。

強み・弱みを活かしたプログラム例

- ・道路や情報インフラ整備や公共交通の充実
- ・企業の活力アップに向けた企業ニーズ（用地、財政、人材）に基づく支援制度創設
- ・産官学連携や有識者・異業種との連携支援
- ・技術展や見本市への出展等の PR 活動
- ・東京やものづくり圏との近接性、割安の地価、災害リスクの低い地域といった優位性を活かした PR
- ・企業誘致に向けた各種支援制度の情報発信
- ・企業ニーズの把握とそれに対応した誘致メニューの設定
- ・実践的な技術・技能や多様な資格取得等の職業能力開発
- ・UI ターン者向けの就労支援
- ・企業展の開催やインターンシップ制度の導入
- ・研究開発施設を活かした産官学連携による人的ネットワークの構築
- ・経済団体等と連携した財務・法務等の起業支援
- ・新エネルギー導入など低炭素化活動への支援や環境先進都市としての情報発信
- ・車両基地を活用した企業誘致

③商業

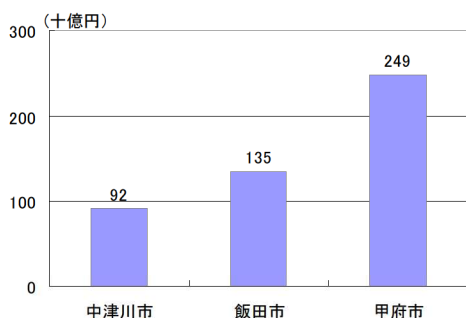
取り組みの方向

- 商店街の賑わいを創出するための取り組みを進める。
- 新たな拠点の賑わいを創出するために地場産品を活かした集客を進める。
- 市内商業を活性化するため、市民が利用しやすい商業機能を高める。

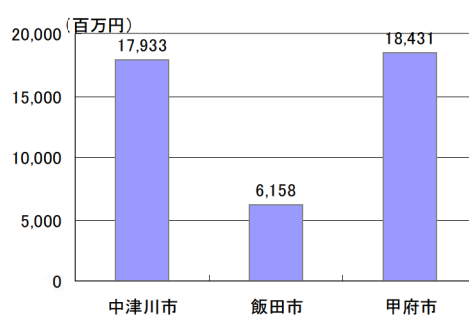
中津川市の特徴

- 商品販売額は最も小さいが、駅前商店街の商品販売額は甲府市と同規模。
- サービス業総生産は着実に増加。
- 商業地価の平均が最も安価。
- 百貨店・デパートなどの小売業機能、サービス業が弱い。
- 車両基地が設置され、雇用確保に伴う消費増加に期待。

[商品販売額 (2007)]



[駅前商店街の商品販売額 (2007)]



出典：商業統計 (H19)

リニア開業の影響と期待

- ・大都市住民による中津川市内の観光消費の拡大が期待される。
- ・旅行者増加に伴う対個人サービスの活性化が期待される。
- ・商業施設の新たな立地が期待される。
- ・駅前商店街からリニア駅周辺への商業機能のシフトする可能性がある。
- ・車両基地に働く従業員や車両基地へのビジネス来訪客に対する商業・サービス業の新たな消費需要が期待される。

強み・弱みを活かしたプログラム例

- ・商店街の統一的な整備・活動や市内宿場町を活用した散策路の整備
- ・空き店舗解消に向けた情報収集・発信
- ・駅前商店街などイベントの定期的開催による賑わい創出
- ・新しい拠点から商店街へのスムーズな誘導に向けた交通案内表示の充実
- ・ワンストップ型商業機能の整備
- ・地場産品を活かした食に関する研究会等の創設
- ・地域ポイント創設など商店街活性化策の推進
- ・車両基地を活用した企業誘致

④観光

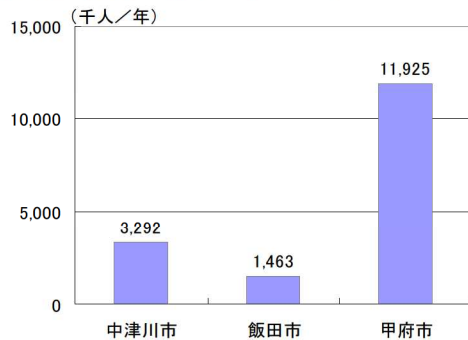
取り組みの方向

- 中津川市の観光資源への注目を高めるため、市内の観光資源の見直しや発掘を行う。
- 首都圏をはじめとした観光客を増やすため、体験型ツアーなど、市内の観光資源と周辺地域が連携した取り組みを行う。
- 中津川市の観光魅力の向上や消費を促すため、国際的、全国的な催事を誘致する。
- 観光リピーターを増やすため、観光地への新たな二次交通・案内情報の充実、市民のおもてなし意識を高める取り組みを行う。
- 外国人観光客を増やすため、外国人をターゲットとした取り組みを行う。

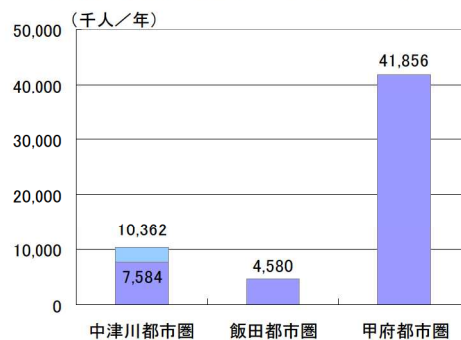
中津川市の特徴

- 観光客数は着実に増加。
- 中津川市及び中津川市周辺に観光資源が広域に分布。
- ミシュランに掲載されるなど多彩な観光地が存在。
- 車両基地が設置され、観光資源としての活用が可能。

〔観光客数（都市）（2010）〕



〔観光客数（都市圏）（2010）〕



出典：各県観光統計（H22）

※中津川都市圏の10,362千人/年は下呂市を含めた数字

リニア開業の影響と期待

- ・首都圏からのリニアを利用した観光客の増加が期待される。
- ・中部国際空港や羽田空港を利用した外国人観光客の増加が期待される。
- ・リニア開業により、中津川市への関心が高まり認知度が向上する。
- ・観光に関連する地域産業の連携による新たな消費の拡大が期待される。
- ・車両基地の観光資源化による観光客増加が期待される。

強み・弱みを活かしたプログラム例

- ・市内の観光地や事業者の連携促進支援
- ・首都圏にない街道文化や伝統芸能などの観光資源の見直し
- ・地場産業と連携した観光資源の発掘
- ・自然、食、歴史等多様な観光ニーズに対応した旅行プランの提案
- ・農業体験、歴史体験な体験型観光ツアーの設定
- ・リニア沿線地域の広域的な地域連携を通じた観光プランの設定
- ・国際コンベンション機能の整備、全国的イベントの誘致
- ・周辺地域との連携による交通網の整備（観光地（下呂、飛騨、木曾地域、等）への直行バスの運行、等）
- ・観光資源との二次交通の充実（整備面、運用面の双方）
- ・観光関係者や市民へのおもてなし講座の開催
- ・観光業者と連携した広域観光（中部国際空港－羽田空港を活用した）ルートの開発
- ・標識、看板等道路案内の整備、外国人への対応（案内表示、言語対応）
- ・インターネットを活用した情報発信（海外観光業者との連携等）
- ・車両基地の観光資源としての位置づけ・活用

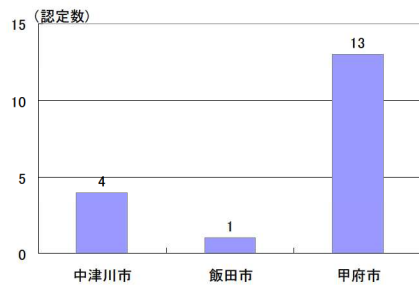
⑤地場産品

取り組みの方向

- 中津川市の地場産品への注目を高めるため、更なるブランド化や資源のブラッシュアップ。
- 地場産品の消費を促すため、地場産品を販売する仕組みや情報発信コンテンツを作成しやすい環境を整える。
- 中津川市の地場産品を活かした事業を活発化させるため、異業種間の連携を促す取り組みを行う。

中津川市の特徴

- 東濃ヒノキ、恵那栗、加工紙、蛭川みかげ石といった地場産品が存在
[地域産業資源活用事業計画の認定内容]



中津川都市圏	
農林水産物	東濃ヒノキ（中津川市） 恵那栗（恵那市）
鉱工業品	加工紙（中津川市、恵那市） 蛭川みかげ石（中津川市）

出典：中小企業独立行政法人中小企業基盤整備機構（平成24年2月現在）

リニア開業の影響と期待

- ・リニア開業をきっかけとした首都圏等世界への売り込み・認知度が向上する。
- ・首都圏、外国人の新たな消費が促進される。

強み・弱みを活かしたプログラム例

- ・地場産品を活かした商品開発の研究支援
- ・官民連携による研究開発やブランド化支援
- ・地場産品のPRとマッチング&管理システムの構築
- ・道の駅や直売所など地場産品を販売する朝市・イベントの実施
- ・官民連携による情報発信コンテンツの作成・展開
- ・農林業と観光業者、住宅メーカー、食品加工メーカー、商店街等の異業種間の情報交換の場の整備
- ・異業種間の連携による後継者の育成

⑥自然環境

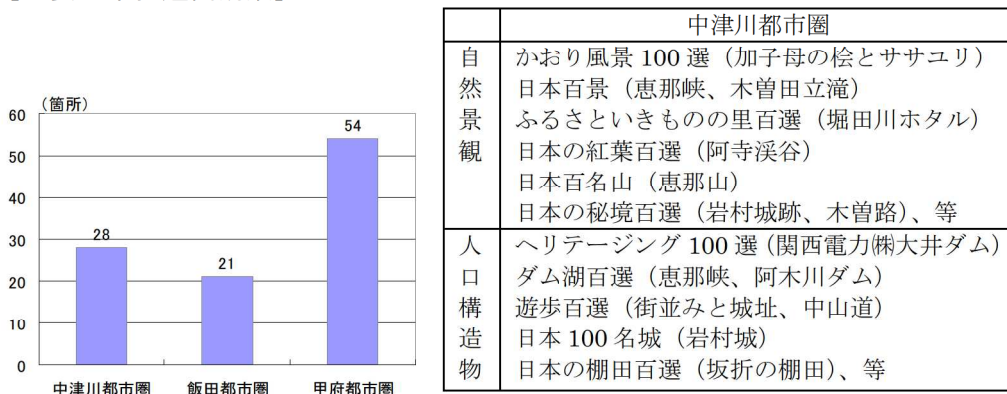
取り組みの方向

- 全ての世代が環境に対する高い意識を持つため、環境に関する教育プログラムの開発や種々の市民活動を支援する。
- 低炭素型の先進都市となるために、市内交通体系の見直しや低炭素型住宅の普及、企業支援を図る。
- 駅周辺地域の自然環境や景観を保つための取り組みを行う。
- 宿場町の雰囲気を保全し、地域魅力を高めるための取り組みを行う。
- 豊かな自然資源を保全しつつ、観光資源として活用する。

中津川市の特徴

- 自然景観、人工建造物で百選に選ばれる資源が多い。

[主要日本百選箇所数]



中津川都市圏	
自然景観	かおり風景 100 選 (加子母の桜とササユリ) 日本百景 (恵那峡、木曾田立滝) ふるさといきものの里百選 (堀田川ホテル) 日本の紅葉百選 (阿寺溪谷) 日本百名山 (恵那山) 日本の秘境百選 (岩村城跡、木曾路)、等
人口構造物	ヘリテージング 100 選 (関西電力(株)大井ダム) ダム湖百選 (恵那峡、阿木川ダム) 遊歩百選 (街並みと城址、中山道) 日本 100 名城 (岩村城) 日本の棚田百選 (坂折の棚田)、等

出典：各種日本百選

リニア開業の影響と期待

- ・豊かな自然に触れあいたいと思う大都市住民が中津川に訪れる。
- ・新しい観光資源としての発掘・資源化への動きが加速する。

強み・弱みを活かしたプログラム例

- ・自然環境意識を高める教育プログラムの開発
- ・市民で行う植樹や清掃活動機会の創出や自然環境保全に関する市民活動への支援
- ・電動スクーター、電気自転車等の普及
- ・低炭素型住宅の普及支援
- ・環境負荷低減活動している企業への活動支援
- ・都市計画・景観計画に基づく自然環境・景観保全
- ・耕作放棄地や荒廃林野の解消
- ・歴史的景観の保存・保全
- ・道しるべや古木の保全、外観・色調の奨励、路地や水路との調和を図る緑化の推進
- ・トレッキング、ハイキング等の豊かな自然環境に触れられる場の整備
- ・日本百選を活かした資源の情報発信、観光商品としての磨き上げ

⑦歴史文化

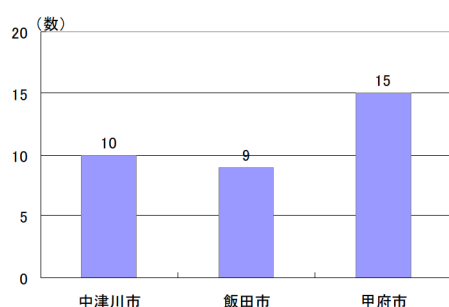
取り組みの方向

- 中津川市の歴史・文化に対する市民の意識を高めるため、体験学習機会の充実やデータベース化・情報発信に取り組む。
- 地域の伝統を受け継ぐため、歴史文化への担い手の育成や伝統行事の参加促進、市民活動を支援する。
- 歴史資源を活用した観光振興を図るため、市内街道文化や伝統芸能、地場産品を組み合わせた取り組みを行う。

中津川市の特徴

- 天然記念物、史跡、住宅、治山治水の国指定文化財がある。

[国指定文化財リスト数 (2012)]



中津川都市圏	
天然記念物	加子母のスギ 坂本のハナノキ自生地 垂洞のシダレモミ ヒツバタゴ自生地
史跡	苗木城跡 中山道
住宅	今井家住宅主屋 大脇家住宅主屋
治山治水	山神砂防堰堤 二ヶ滝第一砂防堰堤

出典：文化庁国指定文化財等データベース

リニア開業の影響と期待

- ・新しい観光資源としての発掘・資源化により、大都市への認知度・関心が高まる。

強み・弱みを活かしたプログラム例

- ・学校教育や生涯学習の場を活用した学習や体験イベントの機会の充実
- ・歴史・文化のデータベース化及び図書・インターネットによる地域内外への情報発信
- ・歴史・文化の関係団体のネットワーク形成や研修会の実施
- ・歴史・文化の担い手の育成
- ・地域の祭りや伝統行事の参加促進や市民活動への支援
- ・首都圏の歴史・文化に関連する人的交流の場の設置
- ・歴史文化遺産の観光資源化及び街道文化を活用した観光ルートの設定
- ・市内の祭りや伝統芸能と地場産品を組み合わせた観光商品化
- ・外国語表記などの環境整備

⑧人づくり・人育て

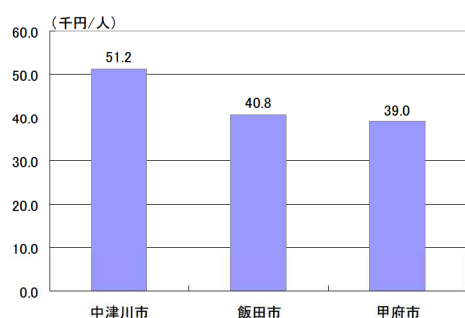
取り組みの方向

- 中津川市の子どもたちの幅のある人間形成を高めるため、他地域との交流の場を提供する。
- 中津川市の子どもたちに先端技術、科学などへの興味を高めるための取り組みを実施する。
- 中津川市の子どもたちのふるさと DNA を育むため、ふるさとを知る体験学習などの場を提供する。
- 中津川市を居住地として活躍する人を増やすため、多様な就業形態を誘致するとともに企業と人材のマッチングを図る。

中津川市の特徴

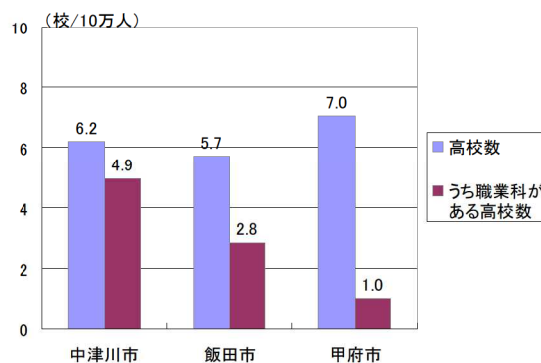
- 一人当たりの教育費の歳出額が大きい。
- 合計特殊出生率は全国平均を上回る。
- 人口あたり図書館の貸出数は甲府市を上回る。
- 職業科のある高等学校が多い。

[一人当たり教育費歳出額 (2010年)]



出典：地方財政統計年報 (H22)

[10万人あたり高等学校数 (2012年)]



出典：全国学校総覧 2012年版

リニア開業の影響と期待

- ・大都市の講師招へい、体験旅行などを通じた教育環境の改善・向上が期待される。
- ・車両基地設置に伴う関連企業の立地や新たな産業立地により、働く場が確保され、若者の地元定着の促進が期待される。

強み・弱みを活かしたプログラム例

- ・姉妹校提携等による沿線地域との交流機会の充実
- ・大都市の教職員間の相互交流
- ・沿線地域のスポーツ団体や文化団体の試合、合宿、発表会の機会の充実
- ・サテライトキャンパスの誘致
- ・大都市の講師による特別講義・教室・セミナーの開催
- ・子供向け技術シンポジウムの開催
- ・祭りや運動会等の地域行事への参加や故郷の良さを知る体験学習メニューの開発
- ・学校間交流や姉妹都市連携等、地域を再発見する取り組みの実施
- ・子どもと高齢者のふれあう機会の場の設置
- ・多様な就業形態の雇用の場の確保
- ・企業展の開催やインターンシップ制度の導入
- ・即戦力となる高い技術・能力をもった人材育成

⑨住宅

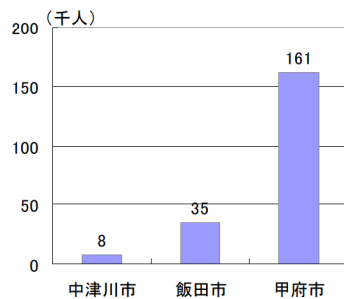
取り組みの方向

- 駅周辺に新たな居住者を増やすため、居住環境の整備や生活しやすい都市機能を配置する。
- 新たな企業進出に伴う従業者が住みやすい居住環境の充実を図る。
- 二地域居住やテレワークなど多様なライフスタイルを支えるための情報発信と受け皿を整備する。

中津川市の特徴

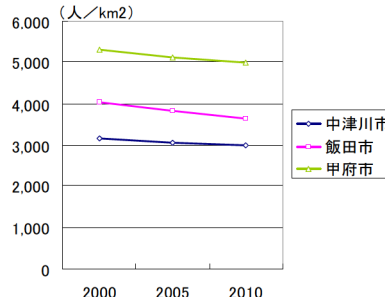
- 人口集中地区（DID）人口が小さく、3都市で最も低密度。年々低密度化が進む。
- 住宅地価は相対的に低い。
- 1住宅あたり延べ面積は全国を大きく上回る。

〔人口集中地区（DID）人口（2010年）〕

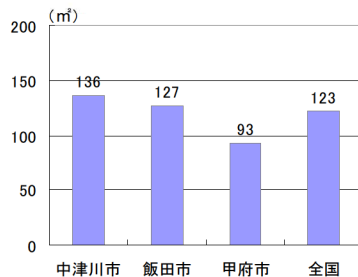


出典：国勢調査（H22）

〔人口集中地区人口密度の推移（2010年）〕

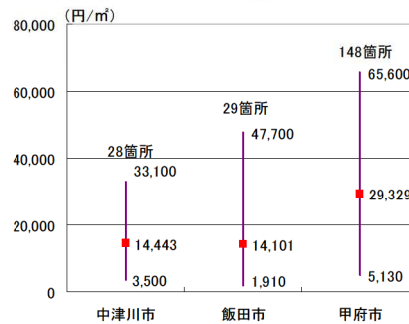


〔1住宅あたり延べ面積（2008年）〕



出典：国勢調査（H22）

〔住宅地価（2011年）〕



出典：都道府県地価調査（H23）

リニア開業の影響と期待

- ・ゆとりある居住を求める大都市圏住民の新たな移住が期待される。
- ・中津川市内に車両基地に働く従業員の住宅需要が発生する。

強み・弱みを活かしたプログラム例

- ・土地利用計画に基づいた適切な誘導
- ・分譲マンションや戸建て住宅や日常的商業機能の整備
- ・地域内の道路や歩道、自転車道の整備
- ・広めの区画設定とした住宅の整備
- ・医療福祉サービスと連携した高齢者用住宅等の整備
- ・空き家や有休農地の活用情報、大都市へのアクセス性、充実した情報技術環境、大都市住民向けの居住環境の発信
- ・環境共生住宅の先進モデル地域、安価な住宅としての情報発信
- ・車両基地従業者の市内定住向けの住宅環境の充実・情報発信

⑩安全・安心

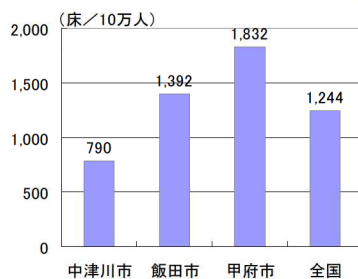
取り組みの方向

- 全ての市民が安心して生活を送れるように医療・福祉との関連機関の連携強化や健康づくり活動を推進する。
- 介護や子育てのしやすい環境を整えるため、介護福祉の関係機関の連携強化や人材確保、相談窓口の充実、バリアフリー等の導入を図る。
- 市民の安心感を向上させるため、緊急時の体制の構築を図る。
- 市民の安心感を向上させるため、減災に向けたハード整備や交通安全への取り組み、防犯意識を高める活動を推進する。
- 地域コミュニティ力を高めるために、互助・共助を深める活動を支援する。
- 新たな地域コミュニティを形成しやすくするため、交流の場の提供や地域リーダーを育成する取り組みを行う。

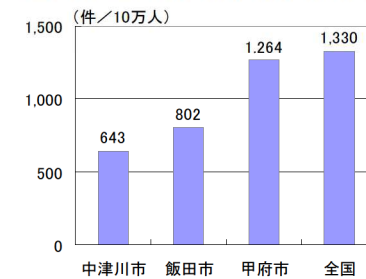
中津川市の特徴

- 人口あたりの医師数、病院病床数、老人福祉施設定員数が全国を下回る。
- 人口あたりの児童福祉施設定員数は全国を上回る。
- 人口あたりの刑法犯認知件数、交通事故発生件数は最も少ない。

[10万人あたりの病院病床数(2010年)] [10万人あたり刑法犯罪認知件数(2009年)]



出典：地域保健医療基礎統計(H22)



出典：犯罪統計書(H21)

リニア開業の影響と期待

- ・様々な交流増大に伴う治安の悪化や交通事故の増加が懸念される。
- ・移住や企業立地などのニーズに対応し、その環境を整えることで、市民の生活環境も向上し、市民の流出の抑制が期待される。

強み・弱みを活かしたプログラム例

- ・情報基盤を活用した市内医療機関の連携強化や大都市圏医療機関との連携支援
- ・臨床研修プログラムや奨学金制度の充実による医師等の医療従事者の確保
- ・居住環境としての医療環境の良さのPR
- ・マラソン大会など健康づくり活動の推進
- ・リニア沿線地域の介護・福祉の関係機関の連携による人材の養成・確保
- ・子育て世代の交流の場の提供、相談窓口の充実
- ・バリアフリー・ユニバーサルデザインの導入促進
- ・消防・救急の体制や大震災、パンデミック等の緊急時の初動体制の整備構築
- ・周辺地域関係機関との連携による防災訓練の実施
- ・リニア沿線地域間の広域的な災害時相互協力体制の強化
- ・外国語表示等の防災機能の充実
- ・オープンスペースの確保、公共施設の耐震化、防災備蓄倉庫の整備
- ・交通安全施設や歩道の整備、交差点の改良
- ・防犯意識を高める活動の支援、防犯パトロールなど地域における多様なボランティア活動の推進
- ・互助・共助を深める地域の祭りや伝統行事の参加促進支援
- ・祭り、行事、清掃活動等の交流の場、情報交換の機会の充実
- ・地域リーダーの育成
- ・交流増大に対応した交通体系の構築

5. 今後のまちづくりに向けた視点

基盤整備及び考え方など今後のまちづくりに向けた視点についてとりまとめました。

(1) 基盤整備

1) 都市空間について

- ・既存のストックを利用し、いたずらに都市化拡散を行わないことが重要となる。具体的には、都市計画的手法に基づく規制の強化、開発のコントロール、リニアによる誘発需要を既存市街地に誘導、期待需要の火消し、「土地は個人のものであるが地域社会の共有資産でもある」意識の醸成が対応策として考えられる。

2) 道路・交通について

①リニア駅周辺の機能

- ・需要が顕在化するまでは開発を抑制し、需要顕在化後に開発許可を行うコントロールが必要である。
- ・リニア駅周辺には開業時点では結節点機能（バスターミナル、駐車場、レンタカーサービスなど）があるとよい。

②リニア駅とのアクセス

- ・国道 19 号、257 号へのアクセスについては、基本的には既存道路を利用（一部区間の改良や拡幅等）しながら、費用制約や物理的制約を考慮して、最短でアクセスする。また、在来線駅との乗換、バス、タクシー、レンタカーの詳細な検討する。さらに、自然環境や景観への影響、維持管理費用も考慮する。
- ・下呂方面については国道 257 号経由でアクセス、木曾方面については国道 19 号経由でアクセスする。
- ・中央自動車道へのアクセスについては、国道 19 号経由で中津川 IC よりアクセスする方法が現実的であるが、中央自動車道にジャンクションを新たに設け、リニア駅近くにロングランプ的なインターチェンジを設けることについて、その実現可能性について検討することも考えられる。

③車両基地とのアクセス

- ・車両基地の位置が未定であるが、どの位置で整備されたとしても車両基地への「通勤」、「業務」、「観光」目的のアクセスの確保が課題となる。
- ・通勤については、中津川中核工業団地でもみられるピーク時による渋滞発生の懸念があり、これに対応したアクセス路の検討が必要となる。
- ・業務については、機材搬入等の大型車交通への対応が必要となる。

- ・観光については、車両基地の周囲を公園的にしつらえ「リニア・パーク」として整備するなど、車両基地を観光資源として活用する場合は、アクセス路もあわせて検討する必要がある。

(2) 今後のまちづくりを考える上での視座

- ・今後のまちづくりを考える上で、景観、恵那山への眺望、土地利用、地歌舞伎など「不変であらねばならぬこと」を明確にしておく必要がある。
- ・市民の意見・考えの積極的な取り込みが必要であり、多様な意見を尊重しながらも、中津川市における普遍的な価値観に照らしあわせて、それぞれのプロジェクトについて議論を進めていくことが重要である。
- ・リニア開業後を含めた工程表の作成を通じたビジョンの策定が必要となる。
- ・過剰な公共投資は避け、身の丈にあった整備に努める必要がある。